

## 27年度版教科書つれづれ 2 「自然のかくし絵」(東京書籍・小学3年)の巻

加藤 郁夫 (読み研事務局長)

「自然のかくし絵」は東京書籍・小学校3年(上)の説明文である。この教材も前から教科書に収録されている。したがってタイトルだけを見ると、引き続き収録されている教材であると思ってしまうのだが、中身をみると大きく変わっている。

結論を先に述べると、私は「自然のかくし絵」の今回の改訂を支持する。変わったことで文章がわかりやすくなった。3年生の子どもたちにとって、文章構成や内容がとらえやすくなったし、明解になったといえる。

このように述べると、文章を全面的に書き換えたのかと思われるかもしれないが、そうではない。新たに書き加えられた文はあるが、大きな変更は、段落や文の順序の入れ替えなのである。どのような変更なのかは、実際に文章を読んでいただければ、よく分かる。ただここでは著作権のこともあり、まるごと文章を載せることはできないことをご了解いただきたい。

改訂の大きなポイントは、以下の二つの文が挿入されたことにある。

A こん虫は、ほご色によって、どのようにてきから身をかかしているのでしょうか。

B では、こん虫は、どんなときでもてきから身を守ることができるのでしょうか。

\*A・Bは加藤が説明のために付した記号

見ていただければ分かる通り、どちらも問いの文である。Aの文は、27年度版(以下新版と呼び、前の文章を旧版と呼ぶ)の3段落になる。1・2段落の文章は、新版も旧版もほとんど違いはない。2段落で「身をかかすのに役立つ色のことをほご色といいます。」と保護色という話題を提示している。

旧版は、そこらいきなり「コノハチョウの羽は、表はあざやかな青とオレンジ色ですが～」と具体的な話に入っていき、ところが新版は、先に示したAの問いの文を入れることで、読み手は「どのようにてきから身をかかしている」のかという点に絞って文章を読んでいくことができる。問いの文を入れることで、読み手は、読みの方向性をよりはっきりと持つことができるのである。

そして「てきから身を守っているこん虫」の話題が終わった後に、Bの「では、こん虫は、どんなときでもてきから身を守ることができるのでしょうか。」というもう一つの問いの文が挿入される。ここでも読み手は、「どんなときでもてきから身を守ることができるのか」という点に絞って読むことができる。

旧版は全体で10段落の文章であったのに対し、新版は新たに2段落増え12段落の文章になっている。

説明的文章では、その文章が何について述べられているかを確かめることが、まず大事である。それは問題提示の文を読み取ることで可能となる。そして問題提示は、しばしば問いの形で示される。もちろん問題提示自体は、問いの形をとらなければいけないわけではない。ただ、問いの形になっていると、問題提示を読み手は意識しやすくなる。

実際、小学校低・中学年の説明的文章において、問題提示が問いの形で示されている文章が多く存在している。このことは、説明的文章の読解指導において、問題提示の読みとりの重要性を示すとともに、問題提示が問いの形で示されることが理解をより容易にしていけることを示している。

A と B の二つの小さい問題提示の文が挿入されたことで、この文章が何について述べるかが明確になったといえる。そしてそのことが以下に見るように、文章の順序の入れ替えにつながったと考えられる。まず新版と旧版の段落番号で、新版でどのような順序の移動があったかを見ておこう。

\* 枠囲みの数字は新版の段落番号を示し、数字に段落と記したのが旧版の段落を示している。

なお、段落によっては、若干の字句の修正や付け加えがあるが、ここではそれは取り上げない。

- ① 1 段落
- ② 2 段落
- ③ (新たに挿入された A の文)
- ④ 3 段落
- ⑤ 6 段落
- ⑥ 7 段落
- ⑦ 4 段落①文
- ⑧ (新たに挿入された B の文)
- ⑨ 5 段落
- ⑩ 8 段落
- ⑪ 9 段落
- ⑫ 10 段落 + 4 段落②文

旧版の 4 段落は次のように書かれていた。

このほかにも、ほご色によって上手に身をかかしているこん虫はたくさんいます。ほご色は、自然のかくし絵だということができるでしょう。

この①文が、

このほかにも、ほご色によって上手に身をかかして、てきから身を守っているこん虫はたくさんいます。(下線部は付け加えられた箇所)

となって、新版の 7 段落になっている。新版で挿入された A の問いに対するまとめの文になっているのである。

そして②文が旧版の一番最後に付け加えられ、新版 12 段落は次のようになっている。

このように、ほご色は、どんな場合でも役立つとはかぎりませんが、てきにかこまれながらこん虫が生きつづけるのに、ずいぶん役立つのです。ほご色は、自然のかくし絵だということができるでしょう。(下線部は付け加えられた箇所)

「自然のかくし絵」という題名は、それだけでは何を意味しているかわかりにくい。旧版では題名の意味を、4 段落で早々に「ほご色は、自然のかくし絵だということができるでしょう。」と説明していた。ところが新版では、その文を文章の一番最後にもっていったのである。一つの文の置かれる位置が、旧版と新版で大きく異なっているのである。結果として、旧版では題名の意味を説明するという役割が強かったが、新版では文章の結びの役割を果たすことになった。

また旧版の5段落の位置も、文章構成の上で大きく変わっている。次のような文章である。

こん虫を食べる鳥やトカゲなどが色を見分ける力は、人間と同じくらいです。ですから、こん虫のほご色は、人間の目をだますのと同じくらいに、これらのてきの目をだまして身をかくすのに役立っていると考えられます。

これが、一字一句変わることなく、新版では9段落になっている。つまり、Bの「では、こん虫は、どんなときでもてきから身を守ることができるのでしょうか。」という問題提示の後に置かれているのである。

旧版では、ほご色が「てきの目をだまして身をかくすのに役立っている」という点に重点が置かれることになっていたが、新版は「どんなときでもてきから身を守ることができる」という問題提示の後だけに、「ほご色は、人間の目をだますのと同じくらいに、～身をかくすのに役立っている」と、ほご色が絶対的なものではないことを述べるとことに重点が置かれることになる。同じ文章が、置かれる位置によって（前後の文脈によって）、その意味する所を変えているのである。

はじめに述べたように、私は今回の「自然のかくし絵」の改訂を支持する。問いの文を入れることで、構成がわかりやすくなり、子どもたちにとっても理解しやすい文章になったといえるからである。小学校三年生の説明文としては、一番最初に置かれているものだけに、説明的文章の系統的な指導を考える上においても、今回の改訂を大いに評価したい。